

「リニア中央新幹線の早期実現、及び飯田駅設置実現」を主張

100年に一度と言われる経済不況の中、厳しい国家財政状況下において、いわゆる公共事業の見直しを迫られています。国家プロジェクトである整備新幹線、なかんづく、リニア中央新幹線も例外ではありません。

昨年12月25日に、JR東海が取締役会で決定した「自己負担を前提とした中央新幹線の推進について」は、まさに民間活力を最大限発揮する重要な決定であり、これからの「我が国の将来に関わるプロジェクト」でもあります。

ただし、全国新幹線鉄道整備法は、これまで自己負担を前提とした民間企業に適用されたことのない法律であり、設備投資の自主性、経営の自由など、民間企業として当たり前のことが、この法律によって阻害されることがないかどうかに関する、法律の解釈について、確認をする必要があります。このことはまさに、県の判断の重要性を意味しております。

東京と名古屋を一体的な街とする都市像を考えると、国家戦略としてのリニア中央新幹線は、直線で高速化を目指すものでなければなりません。さもなくば、この交通機関の必要性もありません。

この沿線に位置する飯田市として、JR東海の決断を評価し支援すると共に、国家的見地からの判断を行えば、リニア中央新幹線は本来南アルプスルートつまりCルートを強く主張すべきであります。

会派みらいは、今日に至る関係機関の熱意ある運動と、郡市民のリニア中央新幹線に寄せる大きな期待を受け止めるとき、Cルートによる早期実現と飯田駅設置を求める決意を、ここに表明します。

しかしながら、ただいま提出されております決議案に反対する立場でなく、飯田市議会が、市民・経済界・行政がひとつになって運動を展開することこそが最も重要であると判断いたしました。

会派みらいは、今決議の提出に当たっては、その内容と共に、決議の時期というものを慎重に判断すべきであると考えています。

飯田市議会は、今日に至るまでこうした決議を行うことに慎重を期してまいりました。このことは、車の両輪である市長との足並みをそろえ、一体となつての運動の重要性を、議会として自覚してきたからに、ほかなりません。

こうした飯田市議会としての姿勢を堅持する意味でも、この先、まさに直近に出されてくるであろう、他の議会の動向と JR 東海の工事費の試算内容の詳細な説明に最も注視し、場合によっては、飯田市議会の姿勢として、ルート問題に踏み込んだ決議が最も有効な決議であり、かつ最も有効なタイミングであると考えます。

なぜ、私たち議会は「決議」を行うのか、それはなぜ今なのか。こうした議会としての行動原理を重視すべきと、会派みらいは考えています。

しかしながら、我々飯田市議会が会派の考えを超えて、ひとつになって運動を展開することを最重要視する立場から、本決議案に賛成をするものであります。

リニア中央新幹線が、国家の大計であることと、リニアが来さえすれば活性化する、ということではなく、中間駅が設置される地域振興の本来の意味するところを踏まえて、関係機関が賢明なる判断をされることを切に期待し、賛成討論を終わります。